



高齢医学内科 森田卓朗先生に聞きました！



Q&A

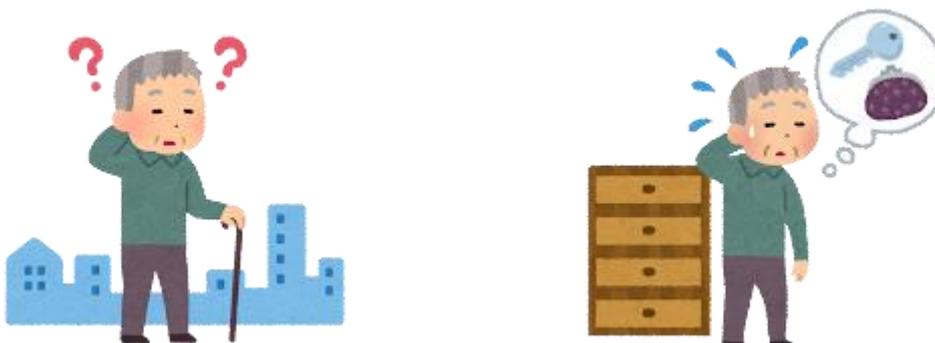
Q1：「単なるもの忘れ」と「認知症」の違いは何ですか？

加齢による「単なるもの忘れ」の場合、もの忘れの自覚はありますが、「認知症」によるもの忘れの場合はもの忘れの自覚そのものがありません。「認知症」になってしまった場合、体験したことそのものを忘れてしまうということが挙げられます。例えば、加齢による「単なる物忘れ」だと、『昨日の夕食を食べたことは覚えているけど、何を食べたか食事の内容が思い出せない』ということがあります。しかし、「認知症」になると、『ご飯を食べたことすら思い出せないし、忘れてしまう』という状況になってしまいます。また、認知症は日常生活に支障が出てしまうというのが特徴として挙げられます。



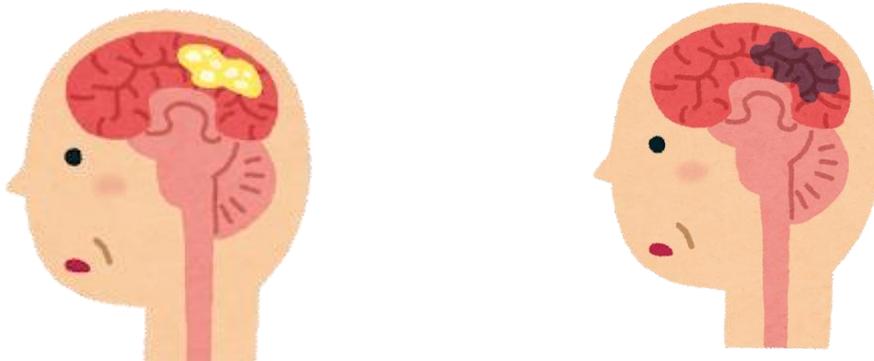
Q2：父に認知症の症状が出てきましたが、受診を嫌がります。

対処法は本人の性格によって異なりますが、「自尊心を傷つけないこと」が大切です。「たまには病院に検診に行こう」「頭痛や風邪などの症状を診てもらおう」など症状をきっかけに受診するのもひとつの方法です。ご本人が受診を嫌がっている場合は診察前にお知らせ頂けると助かります。



Q3：認知症の種類はどのようなものがありますか？

代表的なものとして「アルツハイマー型認知症」「血管性認知症」「レビー小体型認知症」「前頭側頭型認知症」の4種類がありますが、その他に脳卒中、代謝異常、感染症、遺伝で若い頃に発症する、若年性アルツハイマー病など認知機能が低下する病気は多数あります。



Q4：本人への告知は？

基本的にはご本人様も一緒に検査結果の説明をしておりますが、本人様より前に検査結果を聞きたいなどの要望がある場合は事前にご相談してください。

Q5：認知症が治る薬はありますか？

アルツハイマー型認知症の治療薬は開発中ですが、根本的な治療薬は今現在ありません。(承認中) 認知症の進行を遅らせたり、症状を抑制する薬はありますので症状に応じて処方する形になります。

Q6：認知症の人と関わる時の心構えは？

同じことを何度も聞くなどしても、叱ったり、責めるなどしても改善することは期待できず、むしろ、介護拒否や関係の悪化につながる可能性もあります。認知症の方は、叱られたり責められた内容や出来事は忘れてしまいますが、そのときに感じた恐怖心や不快感だけは残ってしまいます。ですから叱る、責めるなど感情的にならず、できるだけ優しい言葉をかけ落ち着いて対応するように心がけるとよいです。



Q7：部屋や玄関で排せつ、どうしたらよい？

弄便は、おむつの中の違和感や不快感が原因になるケースが多いです、可能な限りトイレで排泄するように誘導してあげるといいでしょう。認知症によって便意をうまく伝えられない場合もあるかと思いますが、そわそわし始めるなど何かしらのサインがあればトイレへ誘導してあげる、排泄の時間を決めておく、排泄のタイミングを把握しておく事などもスムーズに行うひとつの方法です。

Q8：「通帳を盗んだ」と疑われる

アルツハイマー型認知症の症状に「もの盗られ妄想」という症状があります。

「もの盗られ妄想」が始まったときのスタンダードな対処法としてよく言われるのが、「否定しないこと」です。たとえば、「財布を盗られた!」と訴えているときに、「そんなわけがない」「思い違いでしょ」などと否定すると、不安感や不信感が募らせることになり、逆効果になります。相手の意見を否定せず一緒に探してあげましょう。先に見つけて「ここにありました」と言ってこちらが差し出すと、「やっぱりあなたが盗んで持っていた」と言われてしまいますので、先に財布を見つけてもこちらからは言わず、うまく本人が見つけれられるように誘導してあげましょう。そして本人に見つけてもらった後は「良かったですね」「ちゃんと財布の場所を覚えていましたね」と相手を称賛することが大事です。

本人は認知症の自覚がなくともやはり記憶に自信がなくて不安な人も多いので、自分が探していたものを見つけて賞賛されると自信につながります。



Q9：「認知症かな」と思ったときに、どこへ相談（受診）すれば良いですか？

毎週金曜日の午後に「もの忘れ外来」をしていますので、相談して頂ければ対応いたします。ご家族からの聴取も診断の手掛かりになりますので一緒に来院して頂きたいと思います。

